

ナラズ現今着手中ノモノハ既經算シ十分ノ結果ヲ  
得ん能ハルノ思ヒナキニ至リテ早急右増加金員必  
シモ本年年度中ニ於テ支出シ要スル義ニモ至リテ付  
之ヲ再算ニ割賦スルモノトセハ自就支出ノ道モ之者  
之ト波存此間右請願ハ即允許スル義ニ至リテ  
果レ何高裁ナカ也

御指合案

上申之趣聞届キ奉大蔵省へ相談ナリ  
金額支出方等ニ命今令書改正案只取調  
更ニこのり出書

明治十五年十一月十六日

検査院大蔵省より由テ保

船舶一三〇号

共同運輸會社へ可下渡汽船製造總理及

監督員派出之義ニ付伺

共同運輸會社江可下渡汽船二艘金百萬圓ヲ以テ歐羅巴  
江注文製造着手ニ付右金額支出方之義ハ本月八日附ヲ  
以テ稟申仕候通ニ有之候就テハ別紙申辨之通右製造事  
業全般總理トシテ共同運輸會社々長及ヒ乙號之通工事  
其他之監督トシテ當省雇英人ブラウン派遣為致度然ル  
ニ右落成期限ハ過般陳述仕候通凡ソ十ヶ月ト見積往返  
共弊畧一ヶ年半ノ見込ヲ以テ出張為致候就テハブラウ  
ン義ハ海負試験并船舶検査等目下必要之者ニ有之候得  
其他ニ適任者無之ニ付不得止同人差出候義ニ付右海負  
試験船舶検査等之為ノ一時他ニ適任ノ者ヲ雇入候積ニ

甲二九六

農商務省

有之候間右ヅラウソ月俸一ヶ月正貨四百五拾圓此一ヶ月  
年半分金八千百圓及ハ倫敦迄往返旅費紙幣四千七百九  
拾壹圓ハ右氣船製造費之内ヨリ支出候様致度依テ別紙  
相添此段相伺候也

明治十五年十二月廿六日 農商務卿西郷從道

太政大臣三條實美殿

追而甲乙兩號ハ派出ニ際シ多少變更之個條モ候ハ  
ハ追テ御届可仕候此段副テ上申候也

伺之趣聞届候事

明治十五年十二月廿七日

共同運輸會社社長

今般歐羅巴ニ於テ汽船新造候ニ付左ノ條件之通  
相心得諸般總理可致事

第一 歐羅巴ハ到着ノ上ハ造船仕様書ヲ以テ有名ナル  
造船師少クモ十名以上ニ入札ヲ命シ其最低價ノ者ト  
約定ヲ結ビ且之ニ記名調印スルヲ得可シ

第二 製造落成ノ期限ハ十二ヶ月ヲ過クヘカラス又製  
造代價ハ着手ノ時ヨリ落成ノ時迄通常五四ニ割合毎  
回全價ノ二割ヨリ多カラサル金額ヲ拂入ルヲ得ベシ  
但シ拂入ノ金額ハ豫ノ其國駐在ノ公使又ハ領事ヨリ  
受取ル可シ

第三 然レトモ前條拂入ノ回数ト金額ヲ多少増減スル  
コト必要ナリト思惟スルトキハ豫メグラウン氏ニ商  
議ノ上之ヲ決定スルヲ得可シ

第四 本船製造中注文ノ部分及ヒ注文外ノ事件ニシテ  
若干部分ヲ取捨變更スルヲ必要ナリト認ムルトキハ  
グラウン氏ト協議決定スルヲ得可シ

第五 本船ノ備品及ヒ其他航海ニ必要ナル用度品等ハ  
グラウン氏ニ命シ其品類ヲ調査シテ後之ヲ購入ス可  
シ

第六 本船ノ船長役負及ヒ其他船負ノ給金ヲ定メ之ヲ  
任免黜陟スルヲ得可シ

第七 本船發航ニ際シ搭載ノ貨物ハアルウ井シニ命シ  
テ之ヲ辨給シ且其運賃額ハ同氏ニ商議シテ之ヲ定ム

可シ

第八 本船ノ領収シタル運賃ハ船長以下ノ給料及ヒ保  
險料等其他ノ航海費ニ支拂フモ妨ケナシ

第九 本船ノ全價ヲ以テ海上保險ノ約定ヲ為シ又「スエ  
ス」運河税ノ支辨且航海中需要ノ石炭及ヒ諸雜費ヲ整  
理シ其他諸般ノ經費ヲ支出スルハ「アルウ井シ」ニ商議  
ノ上之ヲ決行スヘシ

第十 歸朝ノ上ハ各造船師ヨリ差出タル造船請負ノ申  
込書及ヒ諸拂金ノ領收證其他往復シタル諸公文ヲ添  
入報告書ヲ差出スヘシ

明治十五年十二月

農商務卿西郷從道

然レトモ前條拂入ノ回数ト金額ヲ多少増減スル  
 必要ナリト思惟スルトキハ豫メブノウシ氏ニ商  
 上之ヲ決定スルヲ得可シ  
 本船製造中注文ノ部分及ニ注文外ノ事件ニシテ  
 部分ヲ取捨變更スルヲ必要ナリト認ムルトキハ  
 ウシ氏ト協議決定スルヲ得可シ  
 本船ノ備品及ニ其他航海ニ必要ナル用品等ハ  
 ウシ氏ニ命シ其品類ヲ調査シテ後之ヲ購入ス可  
 本船ノ船長役負及ニ其他船員ノ給金ヲ定メ之ヲ  
 點降スルヲ得可シ  
 本船發航ニ際シ搭載ノ貨物ハアルウシ氏ニ命シ  
 之ヲ辨給シ且其運賃額ハ同氏ニ商議シテ之ヲ定ム

本船ノ領收シタル運賃ハ船長以下ノ給料及ニ保  
 料等其他ノ航海費ニ支辨フモ妨ケナシ  
 本船ノ全價ヲ以テ海上保險ノ約定ヲ為シ又「ス工  
 運河税ノ支辨且航海中需要ノ石炭及ニ諸雜費ヲ整  
 其他諸般ノ經費ヲ支出スルハアルウシ氏ニ商議  
 之ヲ決行スヘシ  
 歸朝ノ上ハ各造船師ヨリ差出タル造船請負ノ申  
 目及ニ諸拂金ノ領收證其他往復シタル諸公文ヲ添  
 附告書ヲ差出スヘシ

治十五年十二月

農商務卿西郷從道

アルウシ氏ニ義ハ共同運輸會社ハ雇入候  
 答ニ付海外派出ノ部ハ同社ノ長<sup>キ</sup>ハ  
 委任状ヲ與ヘテ一部ノ事務ヲ擔當為  
 致候積ニ有之候

乙 別

今般汽船新造候ニ付左ノ條件ノ通相心得  
 工事監督可致事  
 工一アールブラウン

第一 本船製造中ノ監督ヲ為シ又其使用ノ材料ハ最精  
 樸ノ良品ニシテ構造ノ方法第一等ニ位シ且一切ノ工  
 事能ク仕様書ニ適合スルヤ否ニ注意シ其他約定書ノ  
 條款ヲ誠實ニ履行スルヤ否ヲ監督ス可シ  
 第二 本船ノ準備品及ヒ航海ニ必要ナル諸般用度品ノ  
 目錄ヲ認メ且其供給ニ付テハ社長ノ指圖ニ隨ヒ之ヲ  
 蒙辨ス可シ

第三 社長ノ指圖ニ隨ヒ航海ノ為メ使役ス可キ船長役



負及ニ其他船負備入ノ事務ヲ辯ス可シ

第四 本船製造中注文ノ部分及ニ注文外ノ事件ヲレテ  
若干部分ヲ取捨変更スルヲ必要ト認ムルトキハ社長  
ノ認可ヲ經テ之ヲ決行スルヲ得可シ

第五 本船發航ニ際シ貨物及ニ積入ノ方法ニ注意シ航  
海中暴風雨ノ難ニ遭遇スルモ為メニ船体ノ破損ヲ来  
タサ、ル様視察ス可シ

第六 本船發航ニ際シ船負ノ注意ニ供スル為メ必要ト  
ル心得書ヲ船長ニ交付スルヲ得可シ

第七 本船ノ製造、航海ノ準備、貨物ノ搭載方、其他發航ニ  
關スル實地ノ事件ハ都テ其責ニ任ス可シ

明治十五年十二月 日 農商務卿西郷從道

船一三〇号

共同運輸會社ニ可下渡汽船製造監督負派出之儀ニ付太  
政官伺書及御田送候條可然御取計有之度此段及御通牒  
候也

明治十五年十二月廿六日 農商務卿西郷從道

大藏卿松方正義殿

農甲二九六号

明治十五年十二月二十六日

大臣

内閣書記官

農商務省同共同運輸會社汽船製造  
造總理及監持負派出之事  
右田議二供

參議

森 伊藤

野 山田

大 福岡

山 藤

井 松

川 佐

大 文 官





伺之趣向届候事

（Seal)

會計検査院 通牒 十七年十月五

第百九十九号 二月八日

第一局

汽船第一二六号

共同運輸會社汽船製造代金御支出之儀付伺

本年七月十二日付以御指令相成候共同運輸會社  
一 下渡スヘキ船舶製造資金百三十拾萬圓者四年  
間ニ割合御下付相成候答ニ有之其内百萬圓ハ  
汽船三十拾萬圓ハ帆船製造費ニ供ニ候儀ニ有之  
候處目下該社開業ニ際ニ數隻ノ帆船ト一隻ノ  
汽船ヲ有スルノミナシハ忽事業ノ差問ハ勿論一  
般運輸ニモ關係ヲ有ニ候ニ付汽船ノ儀者急速外  
國ニ注文セサルヲ得サル事情有之而メ其落成期限ハ  
凡ソ十月月ニ相費可申ニ付今ヨリ注文候得者明年十  
月頃ニハ落成之都合ニ有之然ルニ汽船製造代價之  
儀者通常五圓ニ

（龍骨ヲ据タルトキ全額ノ五分ノ一助材ヲ植タルトキ  
五分ノ一外板ヲ付シタルトキ五分ノ一機関ヲ据付

四